

「四條流包丁儀式」を執り行いました

今回の式題
尾立の鯉



庖丁師は、鳥帽子・狩衣などを身に着けて大俎板の前に座り、食材に手を触れずに、右手に庖丁、左手に箸を持ち、食材を祝の型や法の型に切り分け並べていきます



厳かな日本古来の伝統文化、四條流包丁儀式が、平成26年6月12日（木）弊社受託事業所で行われました

※四條流包丁儀式

平安初期、五十八代光孝天皇が四條中納言 藤原朝臣山蔭卿に、

「俎板、包丁さばきの掟を命じた」それが四條流儀式包丁の始まりです